

巻頭言

北川 雄光*

わが国の食道癌罹患率は 2011 年の推計では人口 10 万人対で男性が 31.7 人、女性が 5.2 人である。年齢調整罹患率では男性はやや増加傾向であり、女性はほぼ横ばいである。人口動態調査によると、2013 年の食道癌死亡者数は 11,543 人で、粗死亡率は人口 10 万人対で男性が 15.8 人、女性が 2.9 人である。年齢調整罹患率では男性においては横ばいで、女性は減少傾向である^{参考 URL 1)}。

近年の内視鏡検診の普及や、ハイビジョン内視鏡やヨード染色の普及、NBI システム、拡大内視鏡などの内視鏡診断の進歩により、多くの早期食道癌が発見されるようになった。EMR や ESD を中心とした内視鏡治療が進歩し、わが国の早期食道癌の診断・治療は世界をリードしている。一方で手術治療は 1980 年代に 3 領域リンパ節郭清を伴う食道切除が開始され、最近では手術手技および周術期管理が確立されたものとなり、欧米を凌駕する手術成績をあげている。しかしながら、手術治療単独治療の成績は stage I では 5 年全生存率は約 90% と良好であるが、stage II・III では約 50% であり、これ以上の飛躍的な向上は望めない状況であった。わが国の食道癌の 90% 以上を占める扁平上皮癌は化学療法や放射線療法に感受性が高く、食道癌手術治療成績のさらなる向上のためには、化学療法、放射線療法を組み合わせた集学的治療が不可欠と考えられている。手術を中心とした集学的治療は JCOG study を中心として検証されてきており、JCOG9204、JCOG9907 の結果より、切除可能進行食道癌に対する手術補助化学療法として術前 5-FU/シスプラチン (FP) 療法 2 コースが標準治療となった^{1), 2)}。現在、術前化学療法をさらに強化したドセタキセル/シスプラチン/5-FU (DCF) 療法による 3 剤併用術前化学療法と欧米の標準治療である術前化学放射線療法を新たな試験治療としたランダム化比較試験である JCOG1109 が進行中であり、その結果が待たれる。

「食道癌治療ガイドライン」は 2002 年に初版として発刊され、その後診断に関する記載が追加され、「食道癌診断・治療ガイドライン」として 2007 年、2012 年

Yuko Kitagawa

*慶應義塾大学医学部一般・消化器外科 (〒160-8582 東京都新宿区信濃町 35)

と5年ごとに改訂された。第4版として名称を「食道癌診療ガイドライン」に変え、エビデンス至上主義からより実際の医療に役立つ判断を取り入れた最新のガイドラインが2017年6月に発刊された。食道癌の治療方針は原則としてガイドラインに記載されている食道癌治療のアルゴリズムに従って決定することを推奨する。

今後の展望としては、手術治療では胸腔鏡下食道切除術が近年急速に普及している。しかし、胸腔鏡手術の安全性、根治性、低侵襲性を示すエビデンスレベルの高いデータはなく、JCOG1409による検証が待たれる。化学療法では5-FU、プラチナ系、タキサン系などの化学療法が施行されているが、分子標的治療薬に関する有用性を示す報告は少なく、今後バイオマーカーの開発やprecision medicineによる個別化治療による成績の向上が待たれる。また新たな作用機序を有する免疫チェックポイント阻害薬であるニボルマブの有効性が第Ⅱ相試験において報告されており³⁾、実臨床への応用が待たれる。

文 献

- 1) Ando, N., Iizuka, T., Ide, H., et al. : Surgery plus chemotherapy compared with surgery alone for localized squamous cell carcinoma of the thoracic esophagus : a Japan Clinical Oncology Group Study—JCOG9204. J. Clin. Oncol. 21 ; 4592-4596, 2003
- 2) Ando, N., Kato, H., Igaki, H., et al. : A randomized trial comparing postoperative adjuvant chemotherapy with cisplatin and 5-fluorouracil versus preoperative chemotherapy for localized advanced squamous cell carcinoma of the thoracic esophagus(JCOG9907). Ann. Surg. Oncol. 19 ; 68-74, 2012
- 3) Kudo, T., Hamamoto, Y., Kato, K., et al. : Nivolumab treatment for oesophageal squamous cell carcinoma an open-label, multicenter phase 2 trial. Lancet Oncol. 18 ; 631-639, 2017

参考 URL (2017 年 6 月現在)

- 1) 国立がん研究センターがん対策情報センター：がん情報サービス
http://ganjoho.jp/reg_stat/index.html